

1.アンケート回答者の所属

居宅8、訪問看護St7、訪問介護1、病院2、訪問歯科1、薬局9
訪問マッサージ1、有料老人ホーム2、医薬品卸2、製薬会社1
大学（3月まで薬局勤務）1

2.感想

(企画)勉強になった37 難しくてわからなかった0 簡単すぎた0
(内容)わかりやすかった。29 わかりにくかった0 どちらともいえない1
(点数) 10点:19 9点:2 8点:7 7点:2 6点:1

3.どのようなことを学んだか？

チームワーク関連：

- ・情報共有の大切さ ・情報リレーの重要性
- ・早い段階での医師、訪問看護、ケアマネ、介護の協力体制を整えることが大切。
- ・顔の見える関係の中でそれぞれの分野のプロがチームで支えていくことが大切
- ・それぞれが役割意識をもって介入することで在宅でのお看取りが成立するという事
- ・個々の専門職が個で支援するのではなく、連携することが重要である。
- ・医療連携の大切さ ・チームワーク
- ・医療、介護の連携を密にしてコミュニケーションが大切
- ・医療介護連携のハブになるのは医療関係者であること（製薬企業）
- ・個々がプロの自覚を持ち、他との意見をすり合わせて、患者様に提供できるとよい。
- ・それぞれの職種からのアプローチが必要である。

患者や家族の理解、コミュニケーション関連：

- ・患者様に最初に入らせていただく際、目標設定や一番つらいこと、本人だけではなく家族も含めて話すことは大切だと思いました。今後の方向性も観て整えられるようにしていきたいです。
- ・説明した内容をどう理解しているか確認するとともに、どう過ごしたいかの確認も大切
- ・余命が短いと分かった時の対応の仕方を学んだ
- ・限られた時間を大事に過ごすために早い段階で本人家族に様々な情報を与えて理解してもらうことが必要だと感じた
- ・薬剤師がもっと早く介入できるようにするために外来のうちからもっとコミュニケーションをとりたい
- ・患者、家族に理解をしてもらうための言葉の選び方
- ・患者さんの背景や時間の使い方
- ・介護が入る時期の見極めを家族にしてもらうためにどうするか？
- ・介入するタイミングがとても大切だと思った。
- ・痛みのコントロールはきちんとした説明を行い本人に納得してもらい正しく薬を使う
- ・患者との話し方、接し方、言葉の選択
- ・患者さまには様々な背景があり考え方も異なるため、それを踏まえてのかかわること
- ・きちんと医療従事者から本人に伝えないとかわいそうな思いをさせてしまう。

職種理解関連：

- ・多職種の認識の違いを理解した ・立場の違う方の目線の違い
- ・いろいろな職種の方と話すことができるのでその視点が違うところが勉強になる
- ・薬剤師の苦悩を知ることができた。 ・多職種の方の仕事内容
- ・薬剤師の思いと葛藤 ・薬剤師の踏み込み不足
- ・介護系の方にとっても薬剤、疾患の知識はある程度必要であること
- ・コンサルティングの役割を如何に担っていくか？
- ・薬剤師であれば当然だが、やはり一般の人の理解と乖離をしている様に感じた
- ・多職種の疑問点が共有できた

医療知識：

- ・ターミナルの患者さんの在宅での医療ケアについて状況をしれた
- ・フェンタニルの貼付部位が参考になった
- ・ガン末期のくすりが適正に使えることが大切だと知った
- ・医療用麻薬の使用方法
- ・オピオイドのスイッチ

その他：

- ・麻薬という言葉も必要であるということ
- ・外来から在宅へ移行する流れ（薬局）

4.もっと聞いてみたいこと

- ・薬剤師がどのくらいまで医師の治療に入り込んでいけるのか不安があります（薬局）
- ・経験、知識が少なかったので、いろいろ知ることができてよかった。
- ・状況がとても分かりやすかったです
- ・いつもわかりやすく勉強になります。
- ・今後も参加し、自分の中の幅を増やしていきたい
- ・医療麻薬と医療大麻との痛みのやわらぎ方の違い
- ・剤形における特徴、注意点など
- ・疼痛コントロールが効果的にできればターミナルの患者さんの在宅生活の可能性がひろがること
- ・ヒヤリハットに対してどう向き合うか？
- ・BSCからの組み立て
- ・がんを告知された方、家族への精神的なフォローの仕方
- ・痛みの日記帳の使い方について
- ・今後も多数の抗がん剤が使われる対策は？
- ・薬を勝手に調整する人をどうすればよいのか？
- ・医療介護連携の具体的方法
- ・製薬企業として何が貢献可能であるか？
- ・ロキソプロフェンとボルフェナク坐薬がベースでオピオイドの開始がレスキューという形に投薬時疑問を抱かなかったのか？
- ・ご家族のケアについて。

- ・ご家族が患者さんの死をどう受け止めたか？
- ・オピオイドの使い方をもっと深く知った方がよいと思った。

5.その他

- ・自分自身のレスキュー薬に対する知識がなかったため少し難しかったがなるほどと思ったことが多かった。スキルアップを図りたい。
- ・在宅してはいますが、ケアマネさんがどの程度患者さんに関わっているか見えません。実際どのような活動をされているのか知りたいです。（薬局）
- ・情報連携のデジタル共有化について
- ・とても話しやすい雰囲気これが連携のスタートになると思いました。
- ・医療用麻薬という言葉をもっと使おうと思った。

6.（参考）参加事業所

居宅

和楽館居宅サービスセンター/ニチイケアセンター日吉/新鶴見ホーム
ハローケアマネジメントステーション/中丸子ケアプランナーズオフィス
セントケア中原/井田居宅介護支援センター/たちばなケアプランセンター
ケアホスピス中原

訪看

訪問看護ステーション鶴見/幸訪問看護ステーション/訪問看護ステーション井田
ソフィア訪看鹿島田

薬局

薬樹薬局小杉店/フロンティア薬局/高田フェミリー薬局/サエラ薬局 高田駅前店

医療機関

川崎市立川崎病院/ひまわり歯科

企業

旭化成ファーマ株式会社/アルフレッサ

その他

一心堂治療院/ストーンアップ

7.(参考)参加職種

薬剤師:12 CM:11 看護師 : 8 事務方:6 介護士,マッサージ師:2 MSW : 1